

2019 年度内閣府青年国際交流事業

「世界青年の船」事業

帰国報告会

Ship for World Youth Program

2020 年 6 月 7 日（日） 13:00-16:30

主催：内閣府

（一財）青少年国際交流推進センター

日本青年国際交流機構



Time Schedule

13:00-13:10 オープニング

13:10-13:20 基本事業概要

13:20-14:00 「SWY」ってどんなところ？

*SWY=Ship for World Youth Program(「世界青年の船」事業英語名称)

本事業のプログラムを「経験・学び」の観点から
6つのテーマに分類し、説明します。

14:00-14:05 休憩

14:05-14:45 参加青年による
パネルディスカッション

本事業を通して何を学び、何を得たのかということ、
参加青年がパネルディスカッション形式で報告します。

14:45-14:55 休憩

14:55-15:10 外国参加青年インタビュー

15:10-15:25 クロージング

15:45-16:15 個別相談会

参加青年と報告会視聴者とが質疑応答形式で少人数で話す
ことのできる機会です。事業への参加を検討している方は、
試験対策や、心構えなどの相談をすることができます。

はじめに

本日は、2019年度内閣府青年国際交流事業、「世界青年の船」事業の帰国報告会に参加していただき、誠にありがとうございます。下船後約三か月間、この日のために実行委員一同、オンラインでのミーティングを通じて何度も話し合いを重ね、よりよい報告会を作るために試行錯誤してきました。例年とは異なりオンラインでの開催となつてしまい、皆さんと直接お会いできないのが残念です。短い時間ではありますが、参加して下さった皆さんにとって、有意義な時間になることを願っています。

帰国報告会実行委員長



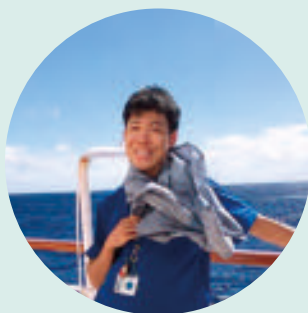
小川 清華(右)

本日は2019年度「世界青年の船」事業帰国報告会にお集まり頂きまして誠にありがとうございます。報告会の実施にあたり内閣府、日本青年国際交流機構、青少年国際交流推進センターの方々、その他関係者の皆様にご支援・ご協力頂きましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。報告会を無事に開催できますことを大変嬉しく感じております。

私たちは、日本代表の参加青年として約30日間の船上研修と前後10日間の陸上研修を修了しました。10か国から集まった外国参加青年と船上生活を共にしたことは、紛れもなく私たち一人ひとりにとって一生に一度の財産になりました。そして、仕事や学業といった普段の生活とは離れた自由な空間の中で自身の関心の向くままに学び、体験し、語り合った経験は私たちの視野を大きく広げ、参加青年とのかけがえのない繋がりを、日本中そして世界中に作ってくれたと確信しています。

大変短い時間ではございますが、私たちが「世界青年の船」で何を体験し、何を得たのか、報告や参加青年との交流を楽しんでいただけましたら幸いです。

副実行委員長



高尾 いぶき

どこまでも続く広い海の中、初めて乗る大型客船での船旅は一生忘れることのできないものとなりました。特に全11か国の青年と昼夜を通して人生を語り合えたことは強く印象に残りました。

国際交流に興味のある青少年にとって本プログラムは異文化体験の機会をもたらし、グローバル人材となる礎になると感じており、今回の報告会ではそんな「世界青年の船」事業の魅力を参加者の生の声を通して感じていただければ幸いです。



野路 ちひろ(左)

私たちは、日本代表として約30日間の航海を終え、帰国しました。11か国240名の代表青年たちと衣食住を共にし、電波のない太平洋上での学びと感動に溢れた日々は、「世界」が広がるものでした。本日は皆様のご協力があり、帰国報告会を開催できたことに感謝申し上げます。参加青年の報告を通じて本事業の魅力を感じてもらえたら幸いです。

CONTENTS

01 「世界青年の船」 事業とは

- 02 参加国紹介
- 03 日本参加青年内訳・航路
- 04 「世界青年の船」 事業日程
- 05 SWY 用語紹介



06 船上活動

- 07 レター・グループ
- 08 コース・ディスカッション
- 10 委員会活動
- 12 セミナー
- 14 クラブ活動
- 16 自主活動
- 18 ナショナル・プレゼンテーション



19 寄港地活動

22 SWY を終えて

24 乗船までの活動

- 24 関西英語勉強会
- 25 過去参加青年主催 40 日後研修



26 応募から乗船まで

27 おわりに

なお、この資料は 2019 年度の事業内容です。参加国や航路などなどは毎年異なります。

「世界青年の船」 事業とは



「世界青年の船」事業とは、全6つある内閣府青年国際交流事業のうちの1つです。世界各国から集まった外国参加青年（約120名）と日本参加青年（約120名）が船内で共同生活をしながら、ディスカッションや異文化交流を通してコミュニケーション力を高め、リーダーシップ力、異文化対応力等の向上を図ることが目的とされた事業です。

英語表記 Ship for World Youth Program の頭文字をとって SWY（スワイ）と呼ばれることが多いです。

参加国紹介



バーレーン王国



ブラジル連邦共和国



エジプト・アラブ共和国



フランス共和国



英国



ケニア共和国



メキシコ合衆国



ニュージーランド



ペルー共和国



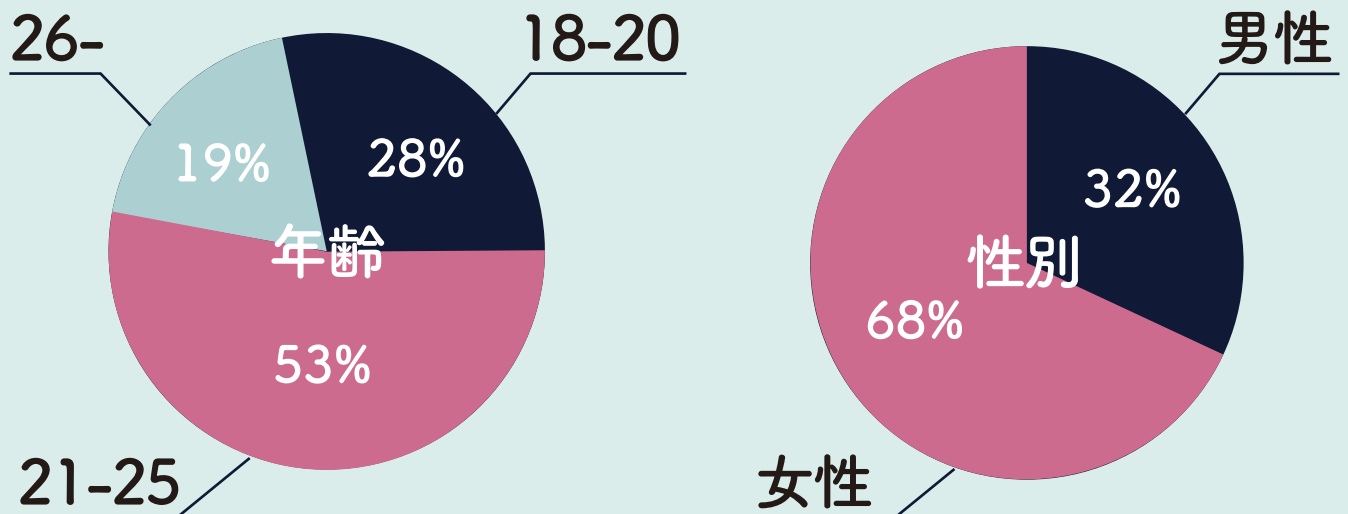
スリランカ民主社会主義共和国



日本

日本参加青年内訳

全国津々浦々から選考を通過した日本参加青年約 120 人が集まります。18 歳から 30 歳（応募時の年齢）まで様々なバックグラウンドを持った青年と全プログラムを共に過ごします。例年 9 月に日本参加青年だけで行われる約 1 週間の事前研修では顔と名前を覚えるのに苦戦しますが、下船後は、家族のような存在となり、この出会いは一生のものとなります。



航路



2019年度「世界青年の船」事業日程

陸上研修1

日程	午前①	午前②	午後①	午後②	午後③	夜
1 1月10日 (金)	外国参加青年来日					
2 1月11日 (土)	外国参加青年 午前:時差調整 午後:オリンピックセンターへ移動 日本参加青年 午後:出航前研修				チェックインオリエンテーション	18:15-20:00 歓迎レセプション
3 1月12日 (日)	9:30-11:30 デリゲーションMTG		13:00-15:00 開講式	15:15-16:00 管理官講話	16:15-17:15 レター・グループ顔合せ	19:00-20:45 アイス・ブレイク
4 1月13日 (月)	9:30-12:00 SWYイントロダクションワークショップ		13:30-14:45 リーダーシップ・セミナー	15:00-16:15 ディスカッションスキル・セミナー	16:30-17:30 レター・グループMTG	
5 1月14日 (火)	9:30-12:00 オリンピック・パラリンピック競技体験		13:40-14:50 コース顔合わせ	15:00-16:10 委員会活動	16:20-17:30 チェックアウトオリエンテーション	

船上研修

日程	Morning Activity (LG)	午前①	午前②	午後①	午後②	午後③	夜
	9:15-9:30	9:30-10:40 (70分)	10:50-12:00 (70分)	13:40-14:50 (70分)	15:00-16:10 (70分)	16:20-17:30 (70分)	19:30-21:30 (120分)
6 1月15日 (水)		オリンピックセンターチェックアウト、横浜港へ出発		横浜港へ移動・自由時間	乗船		船側オリエンテーション/ 船内生活オリエンテーション
7 1月16日 (木)		避難訓練/心理学セミナー		オープンシップ (13:30~15:00)・出港式 (15:00~15:30) 出港 (16:00)			カウンタークローズ
8 1月17日 (金)		ハウスルール・オリエンテーション (モーニング・アセッブリー、カウンター、セウハラ、インフルなど)		船長講話	委員会活動		自主活動
9 1月18日 (土)		半休日		コース・ディスカッション①	委員会活動		自主活動
10 1月19日 (日)	Letter Group A	ナショナル・プレゼンテーション・リハーサル		ナショナル・プレゼンテーション			自主活動
11 1月20日 (月)		公式写真撮影		デリゲーションMTG	ナショナル・プレゼンテーション		自主活動
12 1月21日 (火)	Letter Group B	クラブ紹介		委員会活動	ナショナル・プレゼンテーション		自主活動
13 1月21日 (火)		コース・ディスカッション②		スポーツ&レクリエーション①	自主活動		カウンタークローズ
14 1月22日 (水)	Letter Group C	All-PYセミナー①		Peer Learningセミナー①	委員会活動		自主活動
15 1月23日 (木)		コース補講	デリゲーションMTG	クラブ活動 A ①	ハワイ 入港オリエンテーション		ハワイの歩き方
16 1月24日 (金)		ハワイ(給油・給水)					カウンタークローズ
17 1月25日 (土)		休日					カウンタークローズ
18 1月26日 (日)	Letter Group D	オリンピック・パラリンピックセミナー①		事後活動セッション①	クラブ活動 B ①		自主活動
19 1月27日 (月)	Letter Group E	コース・ディスカッション③		Peer Learningセミナー②	自主活動		自主活動
20 1月28日 (火)		クラブ活動 A ②		委員会活動	公式写真撮影		自主活動
21 1月29日 (水)	Letter Group F	All-PYセミナー②		エンセナダ寄港地オリエンテーション	デリゲーションMTG		カウンタークローズ
22 1月30日 (木)		メキシコ・エンセナダ(寄港地活動)					カウンタークローズ
23 1月31日 (金)							カウンタークローズ
24 2月1日 (土)							キャビンチェンジ オリエンテーション
25 2月2日 (日)		半休日		寄港地活動評価会	キャビンメイト・マッチング	バックアップ、部屋掃除、 移動準備	キャビンチェック
26 2月3日 (月)		キャビンチェンジ (荷物をドルフィンホールへ移動)		委員会活動	レター・グループMTG	キャビンチェンジ (新しい部屋へ移動)	カウンタークローズ
27 2月4日 (火)		クラブ活動 B ②		コース・ディスカッション④	自主活動		自主活動
28 2月5日 (水)	Letter Group G	オリンピック・パラリンピックセミナー②		Peer Learningセミナー③	委員会活動		自主活動
29 2月6日 (木)	Letter Group H	スポーツ&レクリエーション②		クラブ活動 A ③	ハワイ 入港オリエンテーション		自主活動
30 2月7日 (金)		ハワイ(給油・給水)					カウンタークローズ
31 2月8日 (土)		休日					カウンタークローズ
32 2月9日 (日)		コース・ディスカッション⑤		クラブ活動 B ③	委員会活動		自主活動
33 2月10日 (月)	Letter Group I	All-PYセミナー③		事後活動セッション (NL主導)	Peer Learningセミナー④		自主活動
34 2月12日 (水)	Letter Group J	サマリー・フォーラムリハーサル		サマリー・フォーラム			自主活動
35 2月13日 (木)		事後活動セッション②		委員会活動	デリゲーションMTG	オリンピック/パラリンピックセミナー③ NL主導	自主活動
36 2月14日 (金)	Letter Group K	エキシビジョンリハーサル		エキシビジョン			自主活動
37 2月15日 (土)		モーニングオフ	Re-Entry	*13:40-15:40 ふりかえりセッション(NL主導)	*15:40-16:10 下船オリエンテーション	*16:10-20:00 フェアウェルセレモニー&ディナー	
38 2月16日 (日)		下船準備					
39 2月17日 (月)		帰港	オリンピック・センターへ移動	チェックイン	陸上研修②オリエンテーション		カウンタークローズ

陸上研修2

日程	午前①	午前②	午後①	午後②	午後③	夜
40 2月18日 (火)	オリンピック・パラリンピック競技会場へ課題別視察(お台場・有明)				レター・グループMTG	カウンタークローズ
41 2月19日 (水)	東京都内視察				評価会	カウンタークローズ
42 2月20日 (木)	OPY: 地方プログラム JPY: デリゲーションMTG		12:00 - 13:30 修了式/解散交歓会			
43 2月21日 (金)	JPY: 帰国後研修 (Feb 21, 22) OPY: 地方プログラム (Feb 21-24)					
44 2月22日 (土)						
45 2月23日 (日)						
46 2月24日 (月)						

※上記日程は諸般の事情により変更する場合があります。

SWY 用語紹介

プログラムを通して使われる独自の用語を紹介します。
本冊子や、帰国報告会で出てくるものもあるので、ぜひ参考にしてください。

SWY(すわい)

Ship for World Youth の略称であり、「世界青年の船」事業の通称。

PY(ぴーわい)

Participating Youth の略称であり参加青年の総称。

JPY(じえーぴーわい)

Japan Participating Youth の略称であり日本参加青年の総称。

OPY(おーぴーわい)

Overseas Participating Youth の略称であり外国参加青年の総称。

NL(えぬえる)

National Leader の略称。各参加国に対し1名選ばれる。

ANL(えーえぬえる)

Assistant National Leader の略称。NL と PY を繋ぐ役割を担う参加青年。各参加国から2名ずつ選ばれる。

NP(えぬぴー)

ナショナルプレゼンテーション (National Presentation) の略称。

デリゲーション

各参加国団のこと。

サマリー・フォーラム

コース・ディスカッションで学んだことをコースごとに全員に向けての発表するイベント。

フェアウェルセレモニー&ディナー

船上プログラムで最後に行われる壮行会。

キャビンチェンジ

船上プログラム中に一回行われる部屋（キャビン）とそのキャビンメイトの入れ替え。

スポーツ&リクリエーション

船上で計2回、レター・グループ対抗で行う運動会のようなプログラム。

船上活動



レター・グループ

レター・グループとは、日本参加青年 11 名程度、外国参加青年 11 名程度からなるグループのことです。A から K の 11 グループあり、全プログラムを通して一番頻度の多い活動単位です。

各グループにナショナル・リーダーが一人います。レター・グループでは、朝の体温チェックや、夕食前に行われるレター・グループミーティングでの情報共有などを行います。チームのような、家族のような存在です。

コース・ディスカッションとは？

分野の異なる七つのコースに分かれて、ファシリテーターのリードで、様々なディスカッションが行われます。本プログラムの柱の一つで、陸上・船上研修を通して全5回行われました。プログラムの最後にはディスカッションの成果を発表するサマリー・フォーラムが行われます。
※④⑥⑦は事業概要と参加青年からの感想です。



1 文化遺産の保護コース

各国の文化遺産保護に焦点を当て、それらに取り組む文化的あるいは創造的な活動を取り上げた。文化遺産保護に対する意識を高めるとともに知識を掘り下げ、視野を広げることを目的とする。

2 平等な社会におけるテクノロジーコース

AI（人工知能）やビッグデータ、グローバルソーシャルメディアなどの最新のテクノロジーについて、その恩恵や、可能性と限界について理解する。日々進化するテクノロジーを注意深く分析、適切に活用、時には活用しないことを選ぶことができるようになることを目指す。

3 健康とウェルビーイングコース

青年リーダーのメンタルヘルス（心の健康）と、ウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に満たされている事）について正しく理解し、心の健康を向上、維持するための学術的知識を身につけウェルビーイングを促進するスキルを磨く。

4 グローバルシティズンシップコース

地域社会や国際社会により良い変化を生むために、自分がどうあるべきか、参加青年が自身の価値観、志向、日々の実践を振り返り、自己研鑽することを目的とする。異文化との出会いを通じてディベートや課題解決の実践から学び、有言実行ができるようになることを期待する。



合計 11 か国から集まった総勢 20 名以上の参加者と共に「世界を牽引するリーダーとは」という問いについて考える本コースでは数えきれない程のことを学びさせてもらいました。正直このコースに参加する前は、「リーダー」というものがピンとこず、何処か他人事のように感じていましたが、講義を通じてリーダーのマインドセット・言動を学び「自分でもリーダーになれるのだ」と心から思うことができるようになりました。それは互いが受容・鼓舞し合うこの世界が目指すべき理想状態のようなあの環境であったからこそ得ることができたと思いますこの講義で学んだ「心を開く」「思いやり」「共感」の3つを胸にこれからも働いていこうと思います。
(藪内雄生)

5 平和構築と国際協力コース

紛争解決、平和構築、国際協力という複雑かつ多面的な要素を持つこれらのトピックの基礎を学ぶ。ディスカッションを通して国際機関がいかにして国家間や個人間の平和を促進し（あるいはそれに失敗し）ているかを議論する。



6 多文化共生コース

参加青年が多様性を受容し、自身が所属する地域社会で担うべき役割を再発見し、社会参画や政治参画に対してより積極的なアプローチをできるようになることを目指す。



多文化共生コースでは、各セッション英語という共通言語を用いてディスカッションするだけでなく、ゲームやダンス、表情などを用い相手を理解し、その違いを尊重する大切さを学びました。特に印象的だった言葉は、「他者を受け入れるためにはまず自分が自分自身を受け入れていなければならない」ということです。英語力や高いスキルを持った他の参加青年と自分自身を自然と比べてしまい、落ち込むことが続いていた僕にとってこの言葉がとても響きました。そして、自分らしくていいんだと気づくことができた時、他者に対しさらに心を開くことができ、より深い関係を築くことができるのだと実感できました。（西田晃大）

7 地球環境と気候変動コース

地球環境の現状とそれにまつわる社会課題について、全体像を理解し、最終的には参加青年たちが変化の担い手として活躍するために必要なスキルや知識、表現力を見につけることを期待する。



現在の地球環境の現状や問題について広く学びました。ファシリテーターが一方的にレクチャーするのではなく、ディスカッションやロールプレイを通して体験しながら知識を得る機会が多く、5回という時間があっという間に過ぎてしまいました。最も印象に残っているのは、交渉ゲームです。プレイヤーである私たちは世界各国の責任者として、経済の損得を考えてCO2削減の条約に批准するか否かを交渉するというゲームです。私たちは普段日本の国民として環境問題について考えていますが、この交渉ゲームでは、違う国の立場になって発言をし、交渉を進めることで、いろんな角度から環境問題について考える良い機会となりました。（玉橋利沙）

委員会紹介

プログラムを円滑かつ、参加青年が主体的に進めるために、委員会活動があります。参加青年全員がどれか一つ委員会に所属して、研修の運営などのために活動します。委員会によって忙しさや仕事量に差はありますが、とてもやりがいがあります。

委員会紹介

- ・アドバイザーズメント委員会
- ・All PY セミナー委員会
- ・アシスタント・グループ・リーダー委員会
- ・クラブ活動委員会
- ・イベント委員会
- ・ナショナル・プレゼンテーション委員会
- ・オリンピック・パラリンピックセミナー委員会
- ・Peer-Learning セミナー委員会

イベント委員会

堂前佳穂

イベント委員会は、メンバーをスポーツ&リクリエーションとサマリーフォーラム(SS)グループ、フェアウェルセレモニー&ディナーとキャビンチェンジ(FC)グループの2つに分けて活動しました。前年度の企画を参考にするというよりは、オリジナリティを出すために一から作り上げることに重点を置いた為、乗船してOPYが加わってからの企画ではかなり時間に制限があったように思います。SSグループは、スポーツとサマリーフォーラムの企画運営をスムーズにこなしていました。FCグループは、創作力が必要だったため、最初から準備に追われていましたが、無事にキャビンチェンジとフェアウェルパーティーの任務を果たすことができました。人数の多い委員会で、みな和気藹々と取り組んでいました。



アシスタント・グループ・リーダー委員会

田中宏果

アシスタント・グループ・リーダー委員会は各参加国のアシスタント・ナショナル・リーダー2名から成る委員会でした。船上生活中に浮上した問題を互いに共有、解決策を考え出し実行するのが主な活動内容で、いわば風紀委員のような存在でした。委員会内で挙げた問題の多くは、プログラム中の遅刻や規則違反などモラルを問うもので、それぞれの文化や価値観の違いを尊重し、配慮した上で改善策を話し合いました。デリゲーションの代表として参加する委員会ミーティングでは、自分の意見が自国のデリゲーション全体の意見として捉えられることもあり、常に責任感と緊張感がありました。



オリンピック・パラリンピック委員会

岡崎千波

私の所属はオリンピック・パラリンピック委員会でした。私は特に委員会のミーティング中に、リーダーシップ力を学びました。日本人だけのミーティングと違い、意見が途切れなく出てきて何かに対する決定も半ば強制的にしなければ終わらない状況でした。四方八方から意見が飛び交うことは刺激的な反面、このような場でリーダーシップをとることの難しさを感じていました。しかし、委員長を務めていた日本参加青年は、いつも明るく司会をしていき、みんなの意見も踏まえた上で必要に合わせて決断をし、メンバーの信頼を得ていました。彼の話し方や姿勢、自信は近くで見ていると大きな学びになりました。ここで学んだことを生かして私も良いチームが作れるリーダーになりたいです。



セミナー Seminar

参加青年主体で行われるセミナーは大きく3つに分けられます。どれも全員参加のセミナーです。より良いセミナーを作りあげようと、主催する委員会によって様々な工夫がなされてきました。

All PY セミナー

01

All PY セミナー委員会が企画及び運営をし、全参加青年（All PY）が参加するセミナーです。全3回あり、それぞれ異なるテーマのセミナーが行われました。

①「リーダーシップ」

自分なりのリーダーシップを探すためのワークショップ

②「異文化理解」

非言語コミュニケーションを体験
異文化理解に知見のある参加青年をゲストに迎えるパネルディスカッション

③「社会問題」

いくつかの社会問題を挙げ、参加青年の関心に基づいてグループ分けをし、自由に議論

私は、委員会内の議論をまとめ、セミナー運営の全体統括をする役割を担っていました。セミナーを受講するのではなく主催する立場でしたが、セミナーを創り上げる過程でたくさんのお互いのことを学び、お互いに信頼関係を築くことができたと感じています。世界11か国から様々なバックグラウンドを持つメンバーをまとめる上で、当初は国籍の違いによって、日本人同士ではあり得ないような困難があるのではと不安に思っていました。しかし、実際に活動をするとう国籍による差異よりも共通点の方が多く感じられました。例えば、セミナーの準備が進むにつれてメンバーのモチベーションが高まっていくなど、日本でチーム活動をしていくときと似た光景が多々見られました。この経験から、これから国籍や民族の異なる人と交流したり、協働したりする際は、国籍の違いによる先入観に囚われず、ひとりの人間として向き合っていこうと考えています。 今里 優香



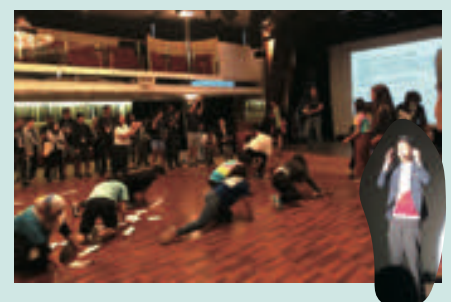
オリンピック・パラリンピックセミナー

02

今年は東京五輪が開催される予定だったことから、オリンピック・パラリンピックセミナーがありました。

「参加青年全員にオリンピックだけでなく、パラリンピックについて考える機会を提供する」ことを目的と設定し、セミナーを2回、計5時間実施しました。初回は知識を楽しみながら得る事をテーマに、前半は各参加国の代表的なオリンピック・パラリンピアンプレゼンテーションを外国参加青年に行ってもらい、後半はレターグループ対抗のクイズ大会を企画。2回目は実際に議論をすることをテーマとし、様々な議題を提示し、積極的に自分の意見を述べてもらいました。ディスカッションの議題は「貴方はオリンピック・パラリンピックを自分の国で開催したいか」「オリンピック・パラリンピックは本当に世界を一つにしているか」など各個人で意見が異なるであろう議題を選んだことで、非常に議論は活発になり、大変盛り上がりました。セミナーを実施する上で特に工夫した点はアイキャッチとゲーム性。入場シーンで船内で撮った聖火リレーの動画を流すことで一気に注目を集め、合間に身体を動かしながら楽しくオリンピック・パラリンピックについて学べるゲームを入れることで飽きさせないようにしていました。結果的に当初の目的を達成するセミナーができたと考えています。

井戸 健太



Peer-Learning セミナー

03

参加青年が決めた自由なテーマで開けるセミナーです。毎回 60 分のセミナー 2 コマか、120 分のセミナー 1 コマを選んで参加します。どれも興味のあるセミナーばかりで、どれを聞きに行くか毎回悩みます。自分の関心分野や、世界に発信したいことを発信できるとてもいい機会です。

「知られざる沖縄」のセミナーを通じて

運天 萌子

私は沖縄出身の二人と共に、沖縄の琉球文化、沖縄戦、基地問題についてセミナーを行いました。セミナー名には、観光地としてのキラキラした沖縄だけではなく、深い部分を伝えたいという想いを込めました。祖母がひめゆり部隊の一員だった事から、沖縄の歴史を私達や、私達よりも若い世代に伝えていかなければならないという想いが以前からあり、今回セミナーを行う側として参加しました。セミナーの目的や、どこまで伝えるか、など船に乗る前の3ヶ月間、何度も話し合いを重ねました。メンバーはそれぞれ、神奈川、京都、沖縄、と遠く離れた地におり、また、学生と社会人という立場が違う中で話し合いを重ねる事は簡単な事ではありませんでした。しかしセミナーを終えて感じた事は、本当にやってよかった、という気持ちに尽きます。日本人の中でも話題にしづらいテーマであり、正直なところ、意見や質問に対してはあまり期待をしていませんでした。しかしいざ質問タイムに入ると、多くの参加青年達が手をあげてくれ、時間内に終わる事ができない程でした。日本から遠く離れた国に住んでいる青年達が、自分事のように一緒に考え、意見してくれ、涙が止まりませんでした。まさに、世界とつながった感覚をもたらしてくれた経験でした。これは世界 11 カ国の青年達が一同に介したこの事業だからこそ、実現出来た事だと思います。あの時の事を思い出すと、今でも目頭が熱くなってしまいます。



その他の Peer-Learning セミナーの例

- * パブリックスピーキング
- * 私のアイデンティティは何か
- * フェミニズム
- * 日本における性教育
- * ブラジルの歴史
- * イスラムとは何か
- * 平和教育
- * CSR とは何か
- * SWY がもし 100 人の村だったら etc.



クラブ活動

クラブ活動では、言語や伝統のダンスなど、その国の文化・習慣を参加青年から教えてもらい、体験できる活動です。参加青年は誰でも主催者としてクラブ活動を運営する事ができます。主催者は1つ、それ以外の参加青年は1人2つのクラブを選んで所属し、最後には各クラブの成果を発表するエキシビションがあります。

書道 クラブを 主催して

私は書道クラブの主催者として活動しました。この活動を通して学んだことはいくつかありますが、1番印象的だったのは「言葉は文化を反映している」ことに気づいたことです。例えば書道の場合、「とめ」「はね」「はらい」といった技術がありますが、これを英語で説明しようとしても適切な表現を見つけることができませんでした。しかし見本をやって見せると外国参加青年もすぐに理解してくれ、「言葉がなくても共有できることはある」と改めて気づかせてくれました。

自分自身の名前や好きな言葉を漢字で書くことで、喜ぶ顔が近くで見られて嬉しかったです。この機会を与えて下さったことに感謝しています。

松川 雅美



内側 まで知ること ができたクラブ 活動

私はブラジルのカポエラとニュージーランドのハカを選びました。

カポエラはブラジルにある対人形式で行うダンスです。3拍子のリズムに合わせて攻撃側と退避側に分かれて交互に攻撃したり退避したりして、いかにも勝負をしているかのように見せるものです。攻撃は蹴りが中心で、退避はしゃがむ・側転などダイナミックに見せるものが多く、それらを一定のリズムと相手に合わせて踊るのは非常に難しかったです。カポエラはブラジルがポルトガルに占領されているときに生まれたものであることや複数種類あることなどが

学べて勉強にもなりました。また主催者も優しく丁寧に教えてくれたのでクラブ内の雰囲気も終始よかったです。ハカはラグビーW杯でオールブラックスがしているのを見ていたり、ニュージーランドのナショナル・プレゼンテーションでハカをやっているのを見て感動したりして、絶対これをしたいたいと思い参加しました。その声量・動作・歴史には感銘を受けました。教えてもらったのはカマテというものでしたが、それ以外にもマオリ語で自己紹介を行ったり、ハカではないマオリ語の歌を教わったりして、マオリ語やニュージーランドの素晴らしい魅力について知ることができました。そしてそれを11か国の参加青年と共に学び、披露して自分が感動を受けたように感動を与えることができました。今後この感銘を世界青年の船に参加していない方に伝えることができたらなと思っています。そのため毎日思い出しながらやっています。

平井 聡一郎



その他の
クラブ活動
の例

- ・ 沖縄クラブ
- ・ 日本語クラブ
- ・ よさこい
- ・ メディテーション
- ・ ヌビアンダンス
- ・ ケニアカルチャークラブ
- ・ ポルトガル語
- ・ アラビア語
- ・ 手作りコスメ
- ・ コーラス
- etc.



コーラス（英国）



手作りコスメ（フランス）



カポエラ（ブラジル）



ヌビアンダンス（エジプト）



沖縄クラブ（日本）



メディテーション（スリランカ）



よさこい（日本）

自主活動

自主活動とはその名の通り、参加青年が自主的に開催できる活動です。参加も主催も自由で、この機会をうまく使って、吸収・発信している青年も多くいました。普段の会話がきっかけとなり、外国参加青年とタッグを組んで、セミナーを開くケースもあるなど、どれも魅力的で有意義な時間です。

水引ワークショップ



私は、船内で水引のワークショップを行いました。ふとしたきっかけで始めた自主活動でしたが、とても充実したものになりました。

まず、活動を通して支えてくれた4人の存在が大きかったです。今まで主催者という立ち位置についていたことがない私が、計3回のワークショップをやり切れたのは、彼女達のおかげです。場所取りや告知、作るもののデザイン、ワークショップの流れなどを手探りの中、考えていきました。

この時に、必ず前回のワークショップを踏まえた改善策を出していったため、3回全て違った形式で行われたかと思います。1人ではなく、5人で協力したからこそ、成長するワークショップが開催できたのかなと思います。

田中 紫穂



和太鼓教室



日本参加青年からは柔道や剣道、水引など、外国参加青年からはコーヒーやお茶の試飲会など、その国の文化が感じられる様々な催しが行われました。その中で、私はナショナル・プレゼンテーションのために結成した和太鼓チームで主催した和太鼓レッスンについて紹介します。

私たちは事前研修からSWYが始まるまでの約三ヶ月間、船上で行われるナショナル・プレゼンテーションのために練習を重ねてきました。

結果は大成功、そのあと外国参加青年からの反響の凄さに押されて自主活動で和太鼓のレッスンをしよう決めました。といっても主催するのはそこまでハードルの高いものではなく、借りる物品と場所を押さえればほぼ終わりです。(ちなみに後半になればなるほど主催したい人が増えるのでやりたいことが決まっている人は前半にやるのがおすすめです)

本番、ほとんどの参加者は外国参加青年でした。特に英語に自信のあるメンバーは和太鼓チームにはいませんでしたが、太鼓の鼓動やリズムを通じ、言語の壁を超えてみんなで楽しむことができました。音楽は言葉を超えて仲を深めるのにとてもおすすめです。皆さんもぜひ音楽を使った自主活動を試してみたいかと思いますが、いかがでしょうか。

村上 拓





アトラクティブ・ジャパンでは、全国各地の特産品を持ち寄り外国参加青年だけではなく、日本参加青年にも地域の魅力を知ってもらうことを目的として、開催しました。特産品等は参加者が事前に地元の企業に働きかけ協賛を募って頂いたものがメインでした。最終的には23の府県から食べ物や特産品が集まり、また観光名所の案内なども積極的に行いました。

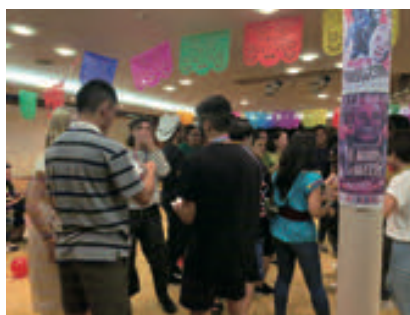
主催していく中で、特に地方の参加者の地元を紹介する強い気持ちを感じたのがとても印象的でした。運営関係者は合計50名以上となり、事前に情報を整理し共有することが大変でした。また乗船後はインターネットがないので、情報共有がより困難になり、多少のトラブルなどもありました。それでも、イベント当日は日本参加青年が一丸となり各ブースの飾り付けなど工夫を凝らして行いました。

また外国参加青年に浴衣の着付けを行い、日本の音楽を流すなど、みんなで力を合わせることでイベントは大変盛り上がり、無事イベントを終えることができました。

内藤 裕二



- ・柔道教室
- ・つまみ細工ワークショップ
- ・タレントショー
- ・カラオケナイト
- ・LGBT talk
- ・カポエラ
- ・成人式
- ・スリランカダンス
- ・メディテーション
- ・ヨガ教室
- ・ジブリコンサート
- ・Sake Bar
- ・Fridays For Future on board



ナショナル・ プレゼンテーション



◀ペルー

▲ブラジル

ナショナル・プレゼンテーション(通称NP)は船上プログラムの中でも青年が特に力を入れる一大プログラムです。30分間で自国の文化や歴史を精一杯に伝えます。どの国のパフォーマンスも魅力的で迫力がありました。



▲ケニア



▲日本



◀エジプト
フランス▶



◀日本のNPの演目>
和太鼓、ムックリの演奏
アイドルダンス、日本舞踊
よさこい、盆踊り
書道パフォーマンス
武道グループ

武道グループ

武道グループは元々、伝統的な武道をそれぞれ披露する予定でしたが、集まったメンバーはみんなが武道経験者ではなかったため、全員で参加するための方法を模索しました。そんな時一人から、竹刀を使ったダンスの提案があり、武道グループ全員で同じものを作ることになりました。遠距離の中、主にNP委員の二人で配置や曲の長さの調整、ダンスの簡略化などをし、動画を共有し各自練習をしました。本格的に練習できたのは乗船前になってからで、NP本番までの朝と夜はほぼ練習に当てました。船酔いや他の自主活動もあり、メンバー全員が揃って練習できる時間はほぼ無く、ダンス自体かなり激しく難しいので、短時間で覚えられるのかと焦燥感を覚えました。本番後、参加青年たちからの歓声を全身に浴び、メンバー全員が達成感であふれました。集団で感じる達成感の大きさとその力を感じられた瞬間でした。

桐原 萌恵



寄港地活動

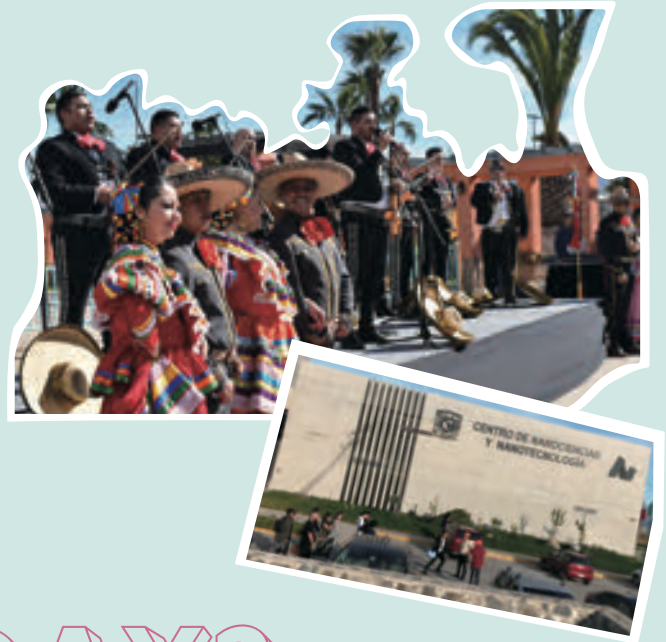


寄港地活動

横浜を出港してから約2週間、ようやく寄港地のメキシコのエンセナーダに入港しました。現地の方から温かい歓迎を受け、3日間の寄港地活動が始まりました。メキシコの過去参加青年が中心となり、プログラムの作成や当日の運営もしてくれました。

DAY1

- 8:00 エンセナーダ入港
- 10:00 歓迎イベント
- 12:30 リビエラ文化センター
- 15:30 カラコール科学博物館
&メキシコ国立自治大学
- 19:00 船上レセプション



DAY2

- 10:30 ティファナにて国境視察
- 11:30 ティファナハイパー
フォーメーションセンター
- 14:00 ティファナ文化センター
- 19:00 帰船

日本を出航してから二週間が経ちました。

にっぽん丸がエンセナーダの港へ着岸する様子をひと目見ようと早起きをして甲板に出ると、既に大勢の参加青年がその時を待っていました。荒々しい山肌と異国の匂いが日本から遙々太平洋を横断したのだという事を実感させ、非常に感慨深い瞬間だったのを覚えています。歓迎会で披露されたメキシコの民族舞踊は次第に周りを巻き込み始め、思わず自分も参加しました。昼食(もちろんタコス)を食べた後には、素晴らしいオーケストラの演奏に合わせてまた皆で踊りました。

二日目にはアメリカとの国境を訪れ、この壁が「二つの国を分断している」のだという事実に直接触れました。三日目にはボランティアとして参加してくれた現地の大学生との交流や街の散策を通してメキシコの「リアル」を体験しました。

三日間という短いあいだに五感をフル活用して吸収した沢山のことは、今でも鮮明に記憶に残っています。

三船 大制



DAY3

10:00 ぶどうの木とワインの博物館見学

16:00 エンセナーダ市内散策

18:00 帰船

20:00 エンセナーダ港出港



「お菓子を買ってくれませんか？」

最終日の自由時間に、私はとある現地の少年にそう声をかけられました。急いでいたため断ってしまいましたが、後にメキシコ人の参加青年に話を聞くと、その少年がストリートチルドレンであったという事実を伝えられました。メキシコにはストリートチルドレンが存在する地域もあり、彼らの多くは人前で泣くように親に指導されていることもあると教えてもらいました。人生で初めてストリートチルドレンを目の当たりにした私にとって、その現実は非常に衝撃的でした。同時に、貧困問題の深刻さを痛感しました。寄港地活動では、貧困問題以外にもインフラ問題や環境問題など、社会問題の根深さを垣間見ました。この経験を通して、将来は世界中に蔓延る社会問題の解決に貢献したい、と強く思いました。

鬼頭 伸典





SWYを終わって

NIPPON MARU

参加青年の声

事業を通して何を学び、それはをどう活かしていくのか。3人の日本参加青年の振り返りと、今後の取り組みを紹介します。

違いを知ること、向き合うこと

船上での生活や寄港地で起きる些細な出来事を通して、日常生活では得ることができない多くのことを学びました。参加青年とのバックグラウンドの違いを実感し、また、その違いは彼らと良い関係を築く上で何ら関係なく、1人の人として向き合うことで仲を深めることができると身をもって経験することができました。今後、日常生活に戻り仕事の場面では多国籍のメンバーをマネジメントし結果を出すことが求められます。本事業で学んだ、相手のバックグラウンドを深く理解しようと心がけること、深く理解したうえで自分の意見や質問を伝えることを大切にして、同僚との対話を続けていこうと思います。そして、彼らと一丸となり、同じゴールに向かい突き進んでいくつもりです。



荻原康平

国際交流を通して

世界青年の船を知ったのはたまたまでした。大学卒業前にご飯でも食べに行こうと誘った友人から教えてもらいました。文化交流や留学には興味があった為調べてみましたがなんと自分の興味・好奇心を沸き立てるものでした。応募締め切りがその3日後だったので急いで応募したことを覚えています。大学院どうするかなんて後先考えずに応募しました。大阪での試験に合格し、参加青年として決定してから先生に相談したのを覚えています。

この内閣府の主催する国際交流事業は留学や文化交流に興味のある人が応募すると思います。実際私もそうでした。しかし乗船してみると、環境が特殊すぎて全く別物でした。船という閉鎖空間・青年との共同生活・ネットワークの無い環境、すべてが自分にとってこれまでに触れてこなかった環境でした。

コミュニケーション力や異文化理解力など様々な事を得られましたが、一番大きかったのは参加青年約240人と繋がれたことであると感じています。自分がこれからよりグローバルに活動していきたいと思えるのは、彼らとのコネクションを得られたことが非常に大きいです。

私はこの事業にもっと社会人が増えれば良いなと思います。日本参加青年は学生が多いと感じました。実際私も参加したのは大学院生の時でした。しかし、様々な意見や知識が混ざり合うこの事業では、人生においてより経験を積んできた方々の参加が増える事で新たなイノベーションが発生するのではないかと感じました。(外国参加青年はほとんどが社会人のようでした)

西谷直弥

自己の尊さを再確認できた旅路

SWYとは何か?と問われる機会が船を降りたくさんありました。私はその問いに対し、『自己の尊さ』を再確認する事ができた。と答えています。

今まで私は英国に6年在住し、海外の方が自分に合っており、また海外に戻ろうと思っていましたが、外国参加青年の人々に「Enaは他の日本参加青年とは違うけどその違うところが美しいと証明した方がいい。」と言われました。確かに日本だと足並みを揃えた方がいいと思われがちですが、私は自分が自分で在れる事や個性の美しさを自分を使って日本で証明していこう!と思うようになりました。そう思えるほどに、船の上では新しい事、今までの常識とは違う事がたくさんあるのです。この事業によって得られる事、感じ方、本当にそれぞれだと思います。私のように、船酔いで1/3の時間をベッドの上で過ごす事もあるかもしれません。でも、これから参加する方や、新しい事に挑戦する人には、どんな時でも常にポジティブに物事を考えて、全ての事柄には意味があると思いきり立ち向かって欲しいです。

もしかすると、何かの答えをみつけない事もあるかもしれません。今ではないのかも知れませんが、まずは挑戦し前に進み続ける事が大切だと思います。私はこの事業を通じ、考える事、気づく事、感謝する事、愛おしい事、すべてが美しい事だ!と心の底から感じました。ここで得た、尊さと愛をもって今後とも自分の人生、そして周りに影響できる人間でありたいです。



宇田恵菜

乗船までの活動



例年、9月の事前研修後から1月の事業開始までの約4カ月間、青年たち自ら様々な活動を行います。同じ地域に住んでいる青年と集まって近況を報告しあったり、内閣府青年国際交流事業に参加した人たちからなる団体である日本青年国際交流機構（IYEO）の方と交流したりと、形は様々です。事前研修で受けた刺激も、日が経つごとに薄れていきますが、定期的に会うことでモチベーション維持にもつながりました。

関西英語勉強会

関西の英語勉強会は基本週に1回のペースで行っていました。勉強会では、主にディベートをしていました。ディベートに慣れているメンバーが仕切ってくれ、フィードバックまでくれるので次回へのモチベーション維持に繋がりました。この勉強会をしたことで、自分の英語力を認識でき、また一緒に船に乗る仲間と打ち解けることができ、安心して船に乗ることができました。実際私の英語力は低く勉強会に参加してなかったら、船上生活がここまで充実しなかったと思います。過去の経験や支えてくれる人がいる安心感があることは心の支えになる、と私は思います。こんなレベルの私が勉強会に参加してもいいのかなと悩みましたが、参加して本当に良かったです。

上園 由夏



他にもこんな活動してました

- ・ 関東英語勉強会
- ・ ハロウィン、クリスマスパーティー（関西）
- ・ 各国ナショナル・リーダーとの交流（関東）
- ・ 他内閣府青年国際交流事業の地方プログラム受け入れ（愛知、高知、新潟）



過去参加青年主催 40 日後研修

この研修は 2018 年度参加青年方々が私たちのために企画・運営してくれました。事前研修から約 40 日後に、東京と奈良で一泊二日の合宿形式でした。

この 40 日というのは、船上生活とほぼ同じ日数であることにかけて設定してくれ、乗船までに何をしたらいいのか、みんなは何をしているんだろう…。とここでしか言えない本音も吐露できる充実した研修内容でした。

In 東京 @ 国立オリンピック記念青少年総合センター

私は下船後、何をしたらいいのだろうか？という疑問を常に持っていました。2018 年度に参加したの先輩方が私たちに対して開いてくれた合宿は 1 つの事後活動の形を見せてくれました。9 月の事前研修から 1 月のプログラム開始までの間にもう一度仲間に実際に会えたことで少し迷っていた気持ちを払拭し、先輩方からも沢山のヒントをいただきました。偶然にも約 30 年前の方たちの同窓会も行われていたため、今までに参加した人たちのつながりの強さや温かさに触れることができ、代表青年として参加できることをうれしく思いました。

大西 小百合



In 奈良 @ 奈良市青少年野外活動センター

2018 年度参加青年が主催の一泊二日で行われた研修です。研修内容は、「世界青年の船」事業をイメージすること、自信をつけること、計画をたてることをテーマで行われました。出航までに何をすべきなのか分からない不安が解消され、先輩方に気軽に相談ができとても心強い存在になりました。また、キャンプファイヤーで火を囲んで歌い踊り、飯盒炊飯を行うことでみんなの距離がグッと縮まりました。この研修を通して、船に向けての目標と計画をたて、そこに向けて応援してくれる先輩と一緒に励まし合う仲間ができました。家族のような温かい時間を過ごし、出港日には見送りに来てくれました。

橋本 佳代子



応募から乗船まで

1月下旬
~3月

応募

各都道府県の青年国際交流主管課、
または全国的な青少年団体へ

3月~
4月

1次試験

各都道府県、全国的な青少年団体
による選考試験

追加募集が行われる年もあります

2020年度「世界青年の船」事業追加募集

期間：5月7日(水)~6月12日(金)17時です。

応募方法等、詳しくは、「内閣府青年国際交流事業」で検索！

7月

2次試験

内閣府が実施（東京・大阪）
例年は筆記試験、グループ面接、
英語面接

9月

事前研修

日本参加青年全員との初顔合わせ
レター・グループ発表
コース・ディスカッションや委員会
等の決定

翌年
1月

陸上研修 乗船！

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、
日程が変更になる可能性があります。詳しくは内閣府ホームページをご覧ください。

おわりに

最後までご覧頂きありがとうございます。事業では本当に様々なことに挑戦できます。事業後には想像もしていなかったような自分に出会えます。ただ、事業が自分を変えてくれるのではなく、自分で自分を変えようとしないと変わりません。

この「世界青年の船」事業との出会いが、皆様の人生や考え方を、大きく変えるステキなきっかけになることを願っています。

2019年度「世界青年の船」事業帰国報告会実行委員委員 宮元茉奈佳

MEMO(ご自由にお使いください)

